

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

1. 化学品(製品)及び会社情報

化学品(製品)の名称: 改質アスファルト混合物

製品番号もしくは名称: 密粒度アスファルト混合物(13,20)改質 I 型、II 型
粗粒度アスファルト混合物(20) 改質 I 型、II 型

供給者の会社名称: 株式会社 ナカサン アスファルトプラント

連絡先: 島根県出雲市知井宮町 1 番地
電話番号:0853-22-7807 (受付時間: 月曜日～金曜日 8:00 - 16:30)
FAX番号:0853-24-0286
メールアドレス:info@naka-sun.co.jp

会社名(製造元): 株式会社 ナカサン ナカサンアスファルトプラント

住所: 島根県出雲市神門町 808 番地

推奨用途及び使用上の制限: 道路舗装用途

2. 危険有害性の要約

※アスファルトは取扱い時の状態(液体状態もしくは固体状態)によって危険有害性が大きくことなるため、ここでは条件による危険有害性を明記する。

【加熱熔融時(液体状態)】

特有の危険有害性: 道路舗装用材料として高温状態で使用するの以下の点に特に注意する。

1. 皮膚に接触すると火傷するので注意する。

GHS 分類区分

急性毒性(経口)	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(経皮)	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
急性毒性(吸入)	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚腐食性及び刺激性	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
呼吸器感作性	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
皮膚感作性	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖細胞変異原性	区分 2(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
発がん性	区分 2(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
生殖毒性	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2(呼吸器系)(シンボル:健康有害性、注意喚起語:警告)
吸引性呼吸器有害性	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(急性)	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(長期間)	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
オゾン層への有害性	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

GHS ラベル要素

絵表示:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報:

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれの疑い

長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸系の障害

常温のストレートアスファルトは GHS 危険有害性分類に非該当であるが、加熱時に発生するミスト/煙/蒸気/ヒューム等には有害性が指摘されており、以下の注意書きとともに記載する。

注意書き:

安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ストレートアスファルト加熱時に硫化水素/一酸化炭素を発生する可能性がある。加熱溶融時に発生するミスト/煙/蒸気/ヒュームを吸い込まないように、室外で取扱う場合は風上で作業を実施し、室内の場合は十分な換気を行う。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急処置

- ・吸引した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易には外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当を受けること。
- ・気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。
- ・眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当を受けること。

保管

- ・換気の良い場所で保管すること。

破棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

【常温時(個体状態)】

GHS 分類区分

- 急性毒性(経口): 区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
- 急性毒性(経皮): 区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
- 急性毒性(吸入): 分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
- 皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
- 眼に対する重篤な損傷性
又は眼刺激性: 区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
- 呼吸器感作性: 分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

皮膚感作性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖細胞変異原性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
発がん性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
生殖毒性:	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
吸引性呼吸器有害性:	区分外(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(急性):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
水生環境有害性(長期間):	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)
オゾン層への有害性:	分類できない(シンボル:なし、注意喚起語:なし)

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別:	混合物
化学名または一般名:	改質アスファルト混合物
別名:	石油アスファルト混合物 Petroleum Asphalt, Bitumen
成分および含有量:	ストレートアスファルト(4.5%~7%) 改質ポリマー(0.4%~0.7%) 碎石、砂など天産物 約 95%
化学特性(化学式):	特定できない
官報公示番号:	9-1720(化審法)、12-189(安衛法)
CAS 番号:	アスファルト 8052-42-4、改質用ポリマー 非公開 改質ポリマーとしては 1) スチレン・ブタジエン共重合体(化審法(6)-134)CAS 9003-55-8 2) ゴム・熱可塑性エラストマー 非公開 など、ほとんど公開されていない
労働安全衛生法:	第 57 条の 2 通知対象物 アスファルト
毒性劇物取締法:	対象物ではない
分類に寄与する不純物及び 安定化添加剤:	情報なし、天産物
労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) (政令番号第 168) (鉱油)

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

化学名又は一般名	重量	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
ストレートアスファルト	4.5%~7.0%	特定できない	8052-42-4	(9)-1720	(12)-189
改質用ポリマー	0.4%~0.7%	特定できない	9003-55-8 など	非公開	非公開
5号砕石	約 11%	特定できない	天産物	—	—
6号砕石	約 23%	特定できない	天産物	—	—
7号砕石	約 13%	特定できない	天産物	—	—
砕石砂	約 15%	特定できない	天産物	—	—
粗 砂	約 13%	特定できない	天産物	—	—
細 砂	約 14%	特定できない	天産物	—	—
石 粉	約 5%	特定できない	天産物	—	—

4. 応急措置

吸入した場合:

- 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
- 呼吸が止まった場合及び呼吸が弱い場合は、衣服を緩め、呼吸気道を確保した上で、人工呼吸を行う。
- ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する可能性がある。加熱溶解時に発生するミスト／煙／蒸気／ヒュームを吸入すると頭痛、めまい、吐き気等の症状を生じる可能性がある。従って、ガス、ミスト等が発生の可能性のある場所からは出来るだけ早く移動すると共に、そうした場所に入る場合は空気呼吸器を装着する。

皮膚に付着した場合:

- 大量の水でヒリヒリしなくなるまで冷やし、皮膚に付着したアスファルトは取り除かないで、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合:

- 清浄な水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合:

- 無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。口の中が汚染されている場合は、水で十分に洗う。

安全データシート (SDS)製品名: 改質アスファルト混合物**急性症状及び遅発性症状の****最も重要な徴候症状:**

・ ストレートアスファルトは加熱時に硫化水素／一酸化炭素を発生する場合があります。硫化水素はばく露許容濃度(10ppm)以上吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400～700ppmでは、30分～1時間のばく露で急性死または後死が考えられ、700ppm以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。¹⁾一酸化炭素は、中毒の目安として、300ppm未満なら影響は少なく、600ppm未満では軽度の作用があり、900ppm未満で中ないし高度の影響がある。1000ppm以上になると危篤症状が現れ、1500ppm以上では生命の危険におよぶ。¹⁾

応急措置をする者の保護:

現在のところ有用な情報なし

医師に対する特別な注意事項:

現在のところ有用な情報なし

5. 火災時の措置**消火剤:**

・霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。

使ってはならない消火剤:

・棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性:

溶融アスファルトの蒸気は、眼や呼吸器の粘膜を刺激する。
火災によっては刺激性ガスを発生する恐れがある。

特有の消化方法:

1. 火元への燃焼源を断つ。
2. 初期の火災には、粉末、炭酸ガスを用いる。
3. 大規模火災の際には、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。
4. 周囲の設備等に散水して冷却する。
5. 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消化を行う者の保護:

消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項:**

・作業では、消火用保護具を着用する。

環境に対する注意事項:

・下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。

除去方法:

- 1 全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
- 2 危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
- 3 大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い空容器に回収する。
- 4 室内で漏出した場合は、窓・ドアを開け十分に換気を行う。

二次災害の防止

・ 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い****技術的対策:**

炎、火花または高温体との接触を避ける。

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

安全取扱注意事項:	高温であるため、火傷をする恐れがあるので、作業中は手袋、その他保護具を着用すること。 火気注意 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
接触回避:	『10.安定性及び反応性』を参照。
衛生対策:	扱い後はよく手を洗うこと 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保管

混触禁止物質:	情報なし
安全な保管条件:	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
安全な容器包装材料:	・耐熱性のある容器を使用すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	・ストレートアスファルトとしては設定されていない。 ・労働安全衛生法 作業環境管理濃度(2012年4月改正) 14) 1ppm(硫化水素として)
許容濃度:	・日本産業衛生学会 9) (2015年度版) 勧告値なし(ストレートアスファルトとして)、5ppm(硫化水素として)、50ppm(一酸化炭素として) ・ACGIH2) (2014年度版) 時間加重平均(TWA)値: 0.5mg/m ³ (Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)、1ppm(硫化水素として)、25ppm(一酸化炭素として) 短時間ばく露限界(STEL)値: 勧告値なし(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)、5ppm(硫化水素として)

ACGIH(2014年度版)

時間加重平均(TWA)値
0.5mg/m³(アスファルトフューム)
1ppm(硫化水素として)
25ppm(一酸化炭素として)
短時間ばく露限界(STEL)値
勧告値なし(アスファルトフューム)
5ppm(硫化水素として)

設備対策:	・屋内作業場は、防爆タイプの排気装置を設置する。 ・取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。
-------	---

保護具

呼吸用保護具:	・状況に応じて呼吸用保護具等を使用する。
---------	----------------------

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

呼吸用保護具:	・状況に応じて呼吸用保護具等を使用する。
手の保護具:	・状況に応じて耐熱性、および耐油性保護手袋等を使用する。
眼の保護具:	・状況に応じて保護眼鏡等を着用する。
皮膚及び身体の保護具:	・状況に応じて保護衣等を使用する。
特別な注意事項:	・現在のところ有用な情報なし

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的性状、形状、色):	固体、黒色
臭い:	データなし
pH:	情報なし

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

初留点	350°C以上
沸点:	データなし
凝固点:	データなし
分解温度:	データなし
引火点:	320°C
発火点:	約 480°C(参考値)
初留点:	350°C以上
爆発限界:	上限 データなし 下限 データなし
密度:	1.03g/cm ³ (15°C)
溶解度 水:	不溶

10. 安定性及び反応性

反応性:	・強酸化剤との接触を避ける。
化学的安定性:	・通常取り扱い条件においては安定である。
避けるべき条件:	・ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないように注意する。 静電放電、衝撃、振動など避ける。
避けるべき材料:	・現在のところ有用な情報なし。
危険有害な分解生成物:	・燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。 製品加熱中あるいは高温貯蔵時に硫化水素、一酸化炭素が発生する可能性がある。
その他:	・現在のところ有用な情報はなし。

11. 有害性情報(アスファルトとして)

急性毒性	・急性毒性は低いと推定される。
経口:	ラット LD50>5000mg/Kg に基づき区分外とした。2)
経皮:	ラット LD50>2000mg/Kg に基づき区分外とした。2)

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

皮膚腐食性及び皮膚刺激性: ・ドレイズテストの結果は刺激性なし。ただし加熱された溶融アスファルトとの接触アスファルトとの接触は火傷の恐れがあるので注意すること。

**眼に対する重篤な損傷性
又は目刺激性:** ・ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。
・アスファルト蒸気/ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものであったとの記載がある。^{p)q)}
・溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。

呼吸感受性: ・現在のところ有用な情報はなし。

皮膚感受性: ・モルモットに対する皮膚感受性試験結果で陰性との報告あり。

生殖細胞変異原性: ・アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性/陰性のデータが存在する。¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾
・しかしながら in vivo 体細胞変異原性試験/体細胞遺伝毒性試験の陽性結果、並びに in vitro 変異原性試験の陽性結果、さらに本物質は変異原性があるとの記載¹⁶⁾を総合的に考慮し区分2とした。

発がん性: ・道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミッション」による職業ばく露についてIARCは、「グループ2B」(人に対して発がんの可能性がある)に分類している。¹⁵⁾なおIARCは「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質及び気体、及び気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が1日に4~9時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。
・EU CLP規則(1272/2008/EC)付属書VI Table 3.1及びTable 3.2に記載されていない。(有害性として分類されない)

生殖毒性: ・現在のところ有用な情報はなし。

特定標的臓器毒性(単回ばく露): ・黒ネズミに対し、針入度級アスファルトを3ヶ月ごとに200mg皮下注射を行ったが、解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): ・常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。
・アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6~7h/日、5日/週で21ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、腫瘍、繊毛損失、上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた。

吸引性呼吸器有害性: 動粘性率が $8000\text{mm}^2/\text{s}$ 以上であるので区分外。

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

その他

- ・製品は通常加熱されているため、皮膚や眼に触れると火傷を生じる。
- ・高温時に発生するガスを吸入すると、嘔吐やめまいを起こすことがある。
- ・ストレートアスファルトは硫化水素を含み、加熱時に一酸化炭素を発生する場合があります。
- ・硫化水素は、暴露許容濃度(10ppm)異常吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐、下痢等の症状を起こす。400~700ppm では、30分~1時間の暴露で急性死または後死が考えられ、700ppm 以上の硫化水素の吸入は、意識喪失や死につながる呼吸器系統の麻痺を起こす。
- ・一酸化炭素は、中毒の目安として、<900ppm で中ないし高度の影響がある。1000ppm 以上になると危篤症状が現れ、1500ppm 以上では生命の危険におよぶ。>

12. 環境影響情報

生態毒性

- ・現在のところ有用な情報はなし。

残留性

- ・アスファルトは通常の温度では蒸発しないが、道路舗装や屋根葺きの前に加熱する際、フュームを発生する。発生したフュームはすぐに凝縮、沈降して土壤に吸着する。フュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壤中では移動性はない。

分解性

- ・アスファルトの水生環境における生分解性の研究例は見当たらない。しかし、数百年にわたって道路舗装や屋根葺きに利用してきた経験から、アスファルトは明らかにいつまでも持続する物質であり、生分解性がないことが特長でもある。

生体蓄積性:

- ・極めて水に難溶であり、高分子量であるため、水中生物の体内に取り込まれるとは考えにくい。

土壤中の移動性:

- ・土壤中での移動性はない。

オゾン層への有害性:

- ・情報なし。

13. 廃棄上の注意

- ・燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
- ・自治体の指示により、知事等の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し処理する。
- ・海、河川、湖やその付近、排水溝に投棄してはならない。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

国内規制

- ・下記、輸送に関する国内法規則制に該当するため、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。

陸上規制:

- ・消防法 指定可燃物(3000kg 以上の場合のみ)

海上規制:

- ・船舶安全法、非危険物

航空規制:

- ・航空法、非危険物

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

国連番号: ・該当しない

追加の規制: ・現在のところ有用情報はなし。

特別の安全対策: ・安全対策および条件: 輸送は通常ローリーによる熔融液体であるため、火傷しないように注意して取り扱う。

15. 適用法令

消防法: 3000kg 以上の場合、指定可燃物

労働安全衛生法: 表示対象物(通知対象物)アスファルト

廃棄物の処理及び清掃に 産業廃棄物規制

関する法律:

道路交通法

16. その他情報

- 引用文献:
- 1) 後藤、桐ほか: 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版(1981)
 - 2) ACGIH(2014) Threshold limit values and biological exposure indices.
 - 3) CONCAWE product dossier no. 92/104 “bitumens and bitumen derivatives”
 - 4) IARC(1985) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.35, SUPPLEMENT 7
 - 5) 危険物・毒物処理取扱いマニュアル(海外技術資料研究所 1974年4月)
 - 6) 化学物質の危険・有害便覧(平成10年版) 中央労働災害防止協会(1998)
 - 7) 危険物船舶運送便覧(船積危険物研究会 1997年3月)
 - 8) 化審法化学物質改訂第5版 化学工業日報社(2002)
 - 9) 許容濃度等の勧告(2013) 日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌
 - 10) EC 理事会指令「67/548/EEC」 付属書 I 「危険な物質リスト」
 - 11) API “ROBUST SUMMARY OF INFORMATION ON ASPHALT”(2003)
 - 12) IPCS(Environmental Health Criteria 20, Selected Petroleum Products)
 - 13) CONCAWE report no. 01/54 environmental classification of petroleum substances—summary data and rationale
 - 14) 作業環境測定基準の一部を改正する告示等の適用等について(厚生労働省 基発0207第3号平成24年2月7日)
 - 15) IARC(2013) Monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to humans. Vol.103.
 - 16) ACGIH(7th, 2001)
 - 17) WHO/IPCS:「国際簡潔評価文書(CICAD)」Vol.59(2005)
 - 18) ドイツ学術振興会(DFG)“Occupational Toxicants Critical Data Evaluation for MAK Values and Classification of Carcinogens” Vol.17

作成履歴: 2015年 8月 1日

改定履歴: 2018年 6月28日

製品安全性データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有物・物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また注意事項

安全データシート (SDS)

製品名: 改質アスファルト混合物

は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。記載内容は情報の提供であって、保証するものではありません。